

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000047		
法人名	特定非営利活動法人 りあらいず和		
事業所名	木もれ陽の家グループホーム		
所在地	岐阜県郡上市八幡町初納430—1		
自己評価作成日	平成28年1月19日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	介護サービス情報が公表されるまでは基本情報票をご覧ください
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭での生活にできるだけ近い環境づくりを目指し、その人の生きてきた歴史を大切に、一人一人の心身の状態や希望に合わせ、ご本人のペースややり方を尊重した支援を行い「できることの継続」と「その人らしい生活」を目指しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者お互いに心の扉を開き、みんなで支え合い、生き生きと暮らせる支援をモットーにしている。法人は、障害福祉サービス事業、居宅介護支援事業、重度者の訪問介護、障害者就労など、多角的な福祉事業を行っている。それらの事業と、機能を密接に連携して、サービスの質を高め、行政や地域住民からは、厚い信頼を得ている。利用者が、生まれ育った地域の中で、その人らしい生活が継続できるよう、職員一丸となって利用者主体の支援を実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員全員が参加した全体会議において、情報の共有を図っている。	理念は「木もれ陽のように穏やかに、心の扉を開き、支え合い、生き生き笑顔で暮らす」である。それを、名札の裏に記載し、日々確認をしている。さらに、職員会議で支援方針を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なるべく地域の行事には気を配り、参加できるようにしている。	自治会の広報を通じ、行事の情報を、地域に発信している。法人の移動販売で、地域高齢者の買い物を支援し、地域に貢献をしている。また、小学校の運動会に参加したり、地域住民を、バーベキューや流しそうめんに招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来て下さる方々を通じて、いつでも自由に入出ししていただけることをPRしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見については、職員に周知徹底するようにし、改善すべき点があれば実践するようにしている。	会議は、年に4回開催している。運営状況や行事の取り組みを報告し、意見を交わしている。会議終了後は、食事会を設けている。転倒防止の提案や筋力アップ体操を奨励し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席していただき、実情を見ていただいた上でアドバイスを受けている。	市の担当者が、運営推進会議の機会に、介護保険の動向や地域高齢者の現状などを報告している。地域ネットワーク研修会で、情報を共有し、サービスの向上につなげている。困難事例や空き情報を相談し、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな小さな身体拘束についても、どうしてそれがいけないか等をしっかり認識し、身体拘束をしないケアをするように取り組んでいる。	所内に、身体拘束ゼロの指針を備えている。拘束の事例や場面を想定し、研修会も行っている。ヒヤリハットの段階で、拘束に至らないよう組織を上げて、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一人ひとりの職員の意思に大きく左右されるため、管理者はもちろん、職員が虐待について正しく理解し、どんな状況下でも虐待が行われないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する権利について文書による周知はしているが、今のところ具体的なところまでは学んでいない為、今後そういうことも研修していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結に際しては、ご家族等と細部に渡って説明し、納得して契約していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望はもちろん、ご家庭の意見については直接ご意見をいただくだけではなく、外部からのアンケートも依頼する。	木もれ陽の家通信を、毎月家族に送り、コメント欄で、意見や要望を確認している。家族の訪問時にも要望や意見を聴いている。介護相談員からは、利用者の思いの報告を受け運営に反映させている。	家族との信頼関係をより深めるために、職員の顔と名前が分かる工夫や退職、異動、新任等の案内をするなどの取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員全員が参加する全体会議を開催し、どんな意見も話し合えるようにしている。	職員は、その日の気づきや提案があれば、レポートを提出している。運営者は、毎朝、所内を見廻り、職員とコミュニケーションを図っている。職員からは、レクリエーションのアイデアで提案があり、取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査により、一人ひとりの勤務状況等の把握に努め、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修にはできるだけ積極的に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村主催の交流会はもとより、各種ネットワークの研修や会議にもできるだけ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は小さなことまで見逃さず、一つ一つ本人がなるべく納得できるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に細部までしっかりと説明し、いつでも不安や要望があれば申し出てほしい旨を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅あるいは前施設や病院等からの情報提供や聞き取りを基にサービス計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることの継続に努め、役割が持てるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ面会に来ていただいたり、受診介助に来ていただけるようにし、施設任せにならないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来ていただけることを伝え、気軽に訪問してもらえるようにしている。	近所の人や家族、同僚が訪問をしている。また、買い物のついでに立ち寄りてもらい、帰る時は、玄関まで見送り、次回の来訪につなげている。地域のイベントやサロンに出かけ、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく日中は、みんなでフロアで過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者は4名いるが、その後の様子は聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人に希望は聞くようにしている。本人が答えられない場合は、ご家族や職員で検討するようにしている。	本人の情報は、事前調査資料で概要を確認し、入居後は、会話や個別ケアの中で、思いや意向を把握している。困難な人は、表情や動作から察し、その人らしい暮らし方に近づけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、できる限りご家族から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所まで、どのような生活を送っていたか、在宅のケアマネ、ご家族から聞き取りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	とりあえず入所時は、ここでの生活に慣れてもらえるような計画を立て、生活する中で課題や必要なケアを見つけ、現状に即した計画にしてい	介護計画は、申し送りの内容や介護記録を検証し、加えて、本人・家族、関係者の意見を踏まえて作成をしている。利用者の出来ることを支え、その人らしい生活が継続できるように反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を月1回の全体会議にて情報共有し、実践することで計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスでは対応できない場合は、ご家族の協力を得ながら適切な対応ができるようにしている。		

岐阜県 木もれ陽の家グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサロンや地域の小学校の運動会に参加したりすることで、社会とのつながりを持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診はご家族にお願いしているが、常に体調の変化には適切な対応をしている。	個々に、かかりつけ医を継続している。受診は、家族が対応をし、事情があれば、職員が同行をしている。急変時は、協力医と連絡を取り、安心して、適切な医療が受けられるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職と常に連携が取れるようにしており、個々の利用者に応じた支援を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には双方で情報提供を行い退院時の生活についてはカンファレンスに参加したり看護サマリーで対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての方針については、ご家族と話し合っておくように心がけているが、今のところ細部についてまで取り決めていないので、検討を要する。	重度化の対応は、本人、家族に説明し、同意を得ている。状態変化に伴い、家族と関係者で話し合い、方針を決めている。終末期の支援は、体制づくりを進めているが、現段階では、行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の訓練は定期的に行っており、常に意識を持つようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間は職員が揃っているが、夜間は職員が1人になるため、知己との協力体制をきちんとしておく必要がある。しかし近隣に民家も少ないので細かな対策を立てる必要がある。	消防署立ち会いで、火災訓練を実施している。関係機関への通報、職員の役割、器具の扱いなどを行っている。法人内の防災組織を整え、地域の避難所として、受け入れ体制が整っている。	事業所としても、地域の防災訓練に参加するなどして、近隣との協力体制づくりの具体化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても常に1人の人格として尊重することを心がけ、言葉遣いや態度にも注意している。	一人ひとりの人権を守り、人格を尊重、プライバシーを損ねない会話をしている。トイレや風呂場では、カーテンで見えないように配慮をし、利用者の心を落ち着かせ、みんなで支え合うように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かするときには一人ひとりにの意向を確認して行うようにしている。 無理強いはないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その月の天候や利用者の体調等を考慮し、希望を聞きながら余暇活動を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝の着替えの折に、ご本人の意向を聞きながら選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べることは生きること」という思いで食事をしていただけるようにと考えている。 少しでもできることをしてもらおうようにしている。	朝、夕の食事は、職員と一緒に食べている。昼食は、併設事業の弁当を利用し、味噌汁を用意している。土、日曜は、家族のように、みんなで鍋を囲み、家庭的な料理を楽しく味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限等がある方もおられ、また食量も全く違うので、その人に応じた食事を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアのできない方にちては、常に職員が手伝って行っている。		

岐阜県 木もれ陽の家グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツ対応ではなく、リハビリパンツを利用してトイレでの排泄に挑戦したり、その人の排泄パターンを把握して適切な対応をするようにしている。	昼夜共に、声をかけ、トイレでの排泄を支援している。ほぼ全員が、安心パンツやパッドで過ごし、おむつの使用量を減らしている。個々の排泄パターンに応じ、失敗のない取り組みで、自立を維持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いものを摂るようにしたり、運動にも心がけるとともに、排泄の状況をしっかり把握するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴スケジュールは決めているが、本人の体調に応じて変更も可能である。	入浴は、利用者の希望に応じ、足浴やシャワー浴にも柔軟に対応をしている。ゆっくり、ゆったりをモットーに、見守り介助で支え、重度者には、リフトを備え、不安感がないように、安全で楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせ、休息は自由に取っていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬については理解した上で、服薬による症状の変化等に気を配り、適切な対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「できることの継続」という点を大切に、その人にできることを見つけ、やっていただくようにし、張り合いを持てるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ散歩には行けるように心がけている。ご家族にも外出ををしてもらったり、地域のサロンの協力も得ている。	近隣の神社までの散歩と外気浴などは、日常的に行い、個別の外出も支援をしている。地域サロンや道の駅、喫茶店などへは、希望者で外出をし、年間行事では、桜や紅葉狩り、演劇の観賞に出かけている。	

岐阜県 木もれ陽の家グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人に応じた対応をしており、その能力に合わせて所持していただいている。あまり大金は持たないように願っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話をかけていただけるし、手紙についてもその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅も含め、全館とも混乱を招くような刺激はなく、居心地良く過ごせるように工夫している。季節感を取り入れることも大切にしている。	居間は広く、天窓から、陽光が注ぎ、快適な空調を整えている。車椅子で安全に、混乱なく往来ができるスペースがある。畳の間にはコタツがあり、思い思いに寛いでいる。季節感のある装飾品を掲示し、落ち着いた空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘りごたつ、ソファ、食卓テーブルと3カ所あり、自分の好きなところで過ごせるようになった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、自由に持ち込んでいただいても良いことにしている。	居室には、介護用ベッド、クローゼットが設置してある。各部屋に、前傾姿勢に対応できるテーブルと、リハビリ用の器具を設置している。使い慣れたものを自由に持ち込み、居心地のよい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを始め、なるべく自立できるような環境の中、「できること」を継続できるように工夫している。		